

書作の目的

歳 森 芳 樹
Yoshiki Toshimori

平成二十七年二月から四月まで成田山書道美術館において受贈記念成瀬映山展が開催されました。先生の作品を前にし書とは何か、何を思い書作に向うのか、その心を探ろうと著作を読み返してみました。学書の条件の一節に書作の目的が示されており、その言葉を書き留めたく調和体で表現をしました。

調和体の一つの表現方法である読み易く書く事で文の意味を理解してもらおうことも狙いとなりました。

文字は、漢字、かなの自画の多少による自然な大小で、一字一字を原稿用紙に埋めるよう配しました。また漢字は楷書に近い行書を使い、かなは漢字に対しやや控えめに書き漢字とかなを対比しました。字間は、一文字一文字を強く印象づけるようにやや空け、余白は行間の白を際立たせるよう心掛け制作しました。

平易に書き表現することに朝鮮してみました。文意を伝える妨げにならなければと思いました。

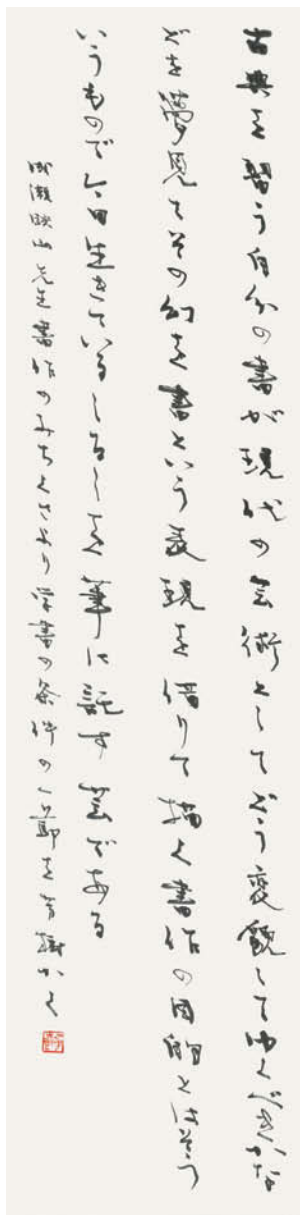
まだまだ書作品として耐え得るものには程遠く、生きているしるしを筆に託せるようになるまで精進あるのみと痛感させられました。

・ 積文 古典を習う自分の書が、現代の芸術としてどう変貌してゆくべきかななどを夢見て、その幻を書という表現を借りて描く。書作の目的とはそういうもので、今日生きているしるしを筆に託す芸である。

・ 用具用材

筆：兼豪筆 紙：台湾画仙 墨：和墨

・ 寸法 一三六cm×三五cm



古典を習う自分の書が、現代の芸術としてどう変貌してゆくべきかな
どを夢見て、その幻を書きという表現を借りて描く。書作の目的とはそ
ういうもので、今日生きているしを筆に託す芸である。

136×35cm